

公益財団法人 東京都農林水産振興財団

令和2年度 第3回理事会議事録

日時：令和2年6月11日（木曜日）

午前10時30分から

場所：（公財）東京都農林水産振興財団

立川庁舎 講堂

理事の現在数 8名

理事出席者 8名

本人出席 6名

影山 竹夫 榎本 輝夫 齋藤 孝 塚本 亨 上林山 隆

村上 ゆり子

欠席 2名

前川 燿男 尾崎 保夫

監事の現在数 2名

監事出席者 2名

坂本 義次 傳田 純

議長 影山 竹夫

議事録署名人 影山 竹夫 坂本 義次 傳田 純

議決事項

第1号議案 令和元年度事業報告及び決算について

第2号議案 定時評議員会の日程及び場所並びに目的である事項の決定について

報告事項

理事の職務執行状況の報告（令和2年3月以降）

1 開会

(猪口管理課長)

理事会開会を宣言する。

2 定足数報告

(猪口管理課長)

理事現在数 8 名、理事の本人出席 6 名で、当財団定款第 44 条に定める定足数を満たしているので、本理事会は成立していることを報告する。

3 開会挨拶

(影山理事長)

理事会の開催にあたり、以下のとおり挨拶を述べた。

本日は理事・監事の皆様方には、ご多忙の中当財団の理事会にお集りいただき誠にありがとうございます。

本日の理事会では、令和元年度（2019 年度）の当財団の事業報告及び決算を中心にご審議いただくとともに、財団の理事、評議員の選任についてあわせてご審議いただきますので、よろしくお願いたします。

昨年度、財団では、東京の農林水産業が抱える課題解決と事業者の経営基盤の強化を図ることを目的に様々な施策を実施したところです。

まず農業分野では、東京農業の担い手育成対策として、新規就農支援事業の充実、援農ボランティアの派遣拡大、意欲ある農業者を応援するチャレンジ農業支援センターによる支援の充実などを実施したところです。また、農外からの新規就農を促進するため、東京農業アカデミー八王子研修農場の開設準備を行い、本年 6 月正式に開講したところです。

次に林業分野では、新規の林業事業体の獲得を目指す多摩産材生産拡大支援事業や多様な林業経営を後押しする林業経営モデル創出事業などを補助事業として新たに実施しました。さらに多摩地域の森林循環を促進するため、花粉対策として主伐事業を進めるとともに、企業が CSR の一環として花粉対策を支援する「企業の森の協定」など花粉の少ない森づくり運動を進めたところです。

畜産振興として、引き続きトウキョウ X の生産拡大に取り組むとともに、青梅庁舎において、衛生面、安全面、飼育作業の効率化に配慮した最新鋭の豚舎、鶏舎の整備に取り組んでいるところであり、来年 3 月には竣工予定であります。

試験研究部門では、農林総合研究センターにおいて、「試験研究推進戦略」を改訂し、先端技術を活用した高収益型生産技術の開発、東京オリジナル農産物・食品の開発などに取り組み、研究成果の普及と現場への還元に努めたところです。また、品種登録した東京おひさまベリーの種苗の安定供給体制を構築し、今年度から、東京おひさまベリーの販売が開始されているところでございます。

皆様、ご案内の通り、年度末の 2 月ころから新型コロナウイルスの感染拡大による事業の休止、延期が相次いでいきましたが、6 月からほぼ全ての事業が活動を再開した

ところであります。

以上が昨年度の主な取り組みですが、理事会の最後にその他報告事項として、最新のトピックスを2点、各担当課より報告いたします。

以上を持ちまして、わたくしの挨拶とさせていただきます。

理事、監事の皆様の忌憚のないご意見、ご質問等をお願いします。

4 議長選任

(猪口管理課長)

当財団定款43条により、議長は理事長があたることになっているので、影山理事長に議長をお願いする旨、発言する。

5 議長就任

(議長)

影山理事長が議長を務める旨を発言し、議事進行に協力を求め、議長となる。

6 議事録署名人選出

(議長)

当財団定款第48条により、議事録署名人は理事長と監事があたることとなっているので、影山理事長、坂本監事及び傳田監事を指名し、各者とも承諾する。

7 議事

(議長)

これより議事に入る旨、発言する。第1号議案、令和元年度事業報告及び決算について、事務局の説明を求める。

(若林事務局長)

第1号議案、令和元年度事業報告及び決算について、議案書及び資料により説明する。

(議長)

事務局の説明に引き続き、監事監査の結果について、傳田監事の報告を求める。

(傳田監事)

「監査報告書」をもとに、事業報告等、計算書類及び附属明細書並びに財産目録等が適正である旨を報告する。

(議長)

質疑を諮ったところ、榎本理事から質問があった。

(榎本理事)

露地イチゴのおひさまベリーほどの程度普及されているのか教えていただきたい。

(園芸技術課長)

19,000本の株が生産されていて、そのうち都内が15,000、都外が5000弱となっております。直売所等で販売がされており、ネット上でも好評です。家庭用にネット販売もされており、タキイネットでの販売も進んでおります。

(議長)

さらに質疑を諮ったところ、塚本理事から質問があった。

(塚本理事)

公益目的事業5の島しょ産海藻を利用した水産ねり製品の品質向上に関する研究とはどのようなものか教えていただきたい。

(宮森食品技術センター所長)

島しょ産のトサカノリを使用したものでございます。一般的な水産ねり製品には、食物繊維が入ってございませんので、食物繊維を多く含む海藻を島しょ産魚種に添加することで、食物繊維を補い、海藻風味が感じられる水産ねり製品を開発したものです。

(塚本理事)

トサカノリは本当にとれなくて。もっと採ればよいのですけれど。
ありがとうございます。

(議長)

パンフレット(事業案内2020)の6ページの右下の写真が、その水産ねり製品ですよね。

(宮森食品技術センター長)

そうです。

(議長)

さらに質疑を諮ったところ、斎藤理事から質問があった。

(斎藤理事)

森林整備事業(公3)に木の街並み創出事業(新規)とありますが、具体的な内容を教えていただきたい。

(石城森の事業課長)

木の街並み創出事業は、建物の外構や外壁に対して支援する事業でございまして昨年度から開始しております。具体的には、昨年度、渋谷区南平台にあります商業施設の外壁に対して交付決定をいたしました。

(斎藤理事)

ちなみにどれくらい（木材を）使っているのですか。

（石城森の事業課長）

構造壁自体が外から見える形の外壁なので、結構量を使っています。

木材使用量は10.5立米でした。

構造に使っている部分もごさいます。

今年度はすでに1件交付決定を行っており、さらにもう1件交付を予定しています。問い合わせは結構多く、もう少し件数は増えると思います。

（議長）

さらに質疑を諮ったところ、傳田監事から質問があった。

（傳田監事）

加工品、具体的にいうと、稲城のナシで台風等により落下したもので加工品を作ろうということで市が中心になって動いています。加工品でもチャレンジ支援センターでアドバイスを受けることは可能ですか。

（武田農業振興課長）

現在登録されている（チャレンジ農業支援センターの）専門家の中には、農産加工の専門家もおりますので、ナシを活用した加工品という意味では派遣は可能となっております。現在の専門家の得意分野としては、ジャムやコンポートといったものがありますけれども、他にも色々あるかと思っておりますので、そのことも含めて検討させていただければと思います。

（議長）

稲城はナシのワインなどもありますね。

専門家の派遣は従来から行っていましたが、昨年度からは（専門家のアドバイスを受けて）実際に物を作ったりするときの費用も財団で一括して助成できるようになりましたので、チャレンジ農業支援センターについては、どんどん使っていただきたいと思えます。

また最新のトピックも最後にご紹介いたします。

（議長）

さらに質疑を諮ったところ、上林山理事から質問があった。

（上林山理事）

2件ほど教えていただきたい。

1つはTOKYO GROWNについてです。最近閲覧数が増えたということですが、どこのページが一番見られておりますでしょうか。また、どこのページが見られていて、それに対する財団なりの評価というのはどうなのか、というのを教えてください。

もう1つは援農ボランティアの登録数が進んでいるということですが、年齢層・登録したきっかけ・応募動機の傾向があれば教えてください。

(橋本地産地消・オリンピック・パラリンピック関連事業推進課長)

TOKYO GROWN のサイト閲覧に関してお答えします。

一番見られているのは毎週更新しておりますプレゼント企画です。

そのページを閲覧しますと、他のページに誘導される仕組みとなっております。

あとは、どこで買えるのか、どこで食べられるのか、というページが人気があるように認識しております。

(武田農業振興課長)

援農ボランティアについてお答えします。

昨年度から援農ボランティアのサイトを特設したということで非常に登録者数が伸びております。応募のきっかけとしては、やはりネットで簡単に応募できるようになったことで増えているのだと思います。

昨年度アンケートを実施しております、年代別構成につきましては、50代が一番多く25.3%、40代が続いて23.4%でございます。20代、30代につきましても、合計で3割を超える方が参加していらっしゃるという結果でございます。

それから、広域援農ボランティアの制度については、約7割の方がインターネットを通じて知っていらっしゃるということで、今回サイトを特設したということは非常に大きな影響があったかと思っております。

具体的な広域援農ボランティアに登録した理由についても、複数回答で聞いておりますけれども、一番多いのは土に触れたり植物に触れたりする楽しみのためということで、約6割の方がそれを理由に登録したと回答しております。

また、次いで多いのが農家を支援し農地や農業の維持に少しでも貢献したいからという方で4割いらっしゃいました。

(議長)

援農ボランティアについて補足しますけれども、非常に参加しやすい仕組みにしたのですね。例えば全くの素人でも大丈夫ですし、半日単位でも、1日単位でも参加できます。それから、車で行ける農家もありますし、最寄り駅まで送迎してくれる農家もあります。

さらに質疑を諮ったところ、特になく、異議なしの声があったので、第1号議案は原案どおり可決承認する旨を宣する。

(議長)

第2号議案は、定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項の決定について、事務局の説明を求める。

(若林事務局長)

第2号議案、定時評議員会の日程及び場所並びに目的である事項の決定について、議案書により日時及び場所、目的である事項について説明する。

(議長)

質疑を諮ったところ、異議なしの声があり、第2号議案は原案どおり可決承認する旨を宣する。

(議長)

報告事項、理事の職務執行状況の報告について、事務局の説明を求める。

(若林事務局長)

報告事項、理事の職務執行状況の報告について、資料により説明する。

(議長)

質疑を諮ったところ、特になかった。

(議長)

最後にせっかくの機会ですから、最新のトピックについて担当課長から説明させていただきます。

(橋本地産地消・オリンピック・パラリンピック関連事業推進課長)

資料と新聞記事をおつけいたしました。農業系高校で生産したGAP農産物のプレゼント企画について、1点情報提供させていただきます。

東京2020大会に向けて、東京都はGAPを推進してきており、財団ではJGAP等民間認証の取得の支援に取り組み目標の86%にあたる65事業者が民間認証を取得してきております。とりわけ都立の農業系高校は島しょ地域を含め8校全校が財団の支援事業を活用し、教育活動の一環として今年4月までにJGAP認証を取得しました。今年度から全校でGAPを踏まえた栽培管理を行うことで、生徒達は持続可能で安全安心な農業を学んでいます。

特に今年はオリパラ大会の年、各校がイベント等で農産物提供機会の拡大を期待しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響でオリパラの延期、イベント等の中止が相次ぎました。

そのような中、生徒達は都民のみなさまに自分達の生産品を提供して元気を与えたいとの思いがございました。そこで財団が運営するWEBサイトのプレゼント企画商品として各校の生産品を提供し、あわせて農業系高校のGAPの取り組みをPRすることとしました。第1弾として、瑞穂農芸高校で生産したメロン等を3名にプレゼントする募集を4日から開始、読売新聞・朝日新聞・都政新報・日本農業新聞に紹介記事が掲載されました。今後7月下旬ごろまでに第2弾・第3弾として全校のプレゼント提供を予定しております。

(武田農業振興課長)

昨日、都議会で議決されました補正予算の中で、農林水産振興財団が実施する事業がございますのでご報告します。

お手元の資料をご覧ください。

現在、財団が実施している「チャレンジ農業支援事業」を拡充し、新型コロナウイ

ルスの発生に伴い販売喪失に直面した農家への販路開拓等の支援を行って参ります。

具体的には、農家のための商品の売り込みや商談の仲介など、販売先と農家のマッチングをサポートする「販路開拓ナビゲータ」を派遣する事業を行って参ります。

また、農家が新たな販路を開拓するため、インターネットショップなど、Eコマース等への出店に必要な経費について、事業費の4/5以内で補助を行って参ります。

現在、東京都と委託契約の変更手続きを行っているところですが、早ければ、今月末にも農業者からの申請受付を開始する予定でございます。

(議長)

なお、2番目に報告したチャレンジ農業支援事業の拡充につきましては、後日、財団の収支予算の補正が必要でございますので、改めてご提案させていただきたいと思っております。

報告について質疑を諮ったところ、特になしとなり、報告は終了する。

(議長)

本日の審議は終了した旨を宣し、議長を降りる。

8 閉会

(猪口管理課長)

以上をもって、令和2年度第3回理事会を終了する旨を告げ、閉会する。

以上、相違ないので、記名、捺印する。

令和2年6月12日

議事録署名人 影 山 竹 夫

議事録署名人 坂 本 義 次

議事録署名人 傳 田 純